# 古文 読解問題「伊勢物語 ～芥川～」①

昔、男ありけり。女のえ①得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、ァいと暗きに②来けり。

芥川といふ川を③率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。ゆく先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも④知らで、神さへいとィいみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる倉に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籙を負ひて戸口にをり、「はや夜も明けなむ。」と思ひつつゐたりけるに、ⁱ鬼はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり。

ゥやうやう夜も明けゆくに、⑤見れば率て来し女もなし。足ずりをして泣けどもかひなし。

ⁱⁱ白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを

これは、二条の后の、いとこの女御の御もとに、仕うまつるやうにてゐ給へりけるを、かたちのいとめでたくおはしければ、盗みて負ひて出でたりけるを、御兄、堀河の大臣、太郎国経の大納言、まだ下臈にて内裏へ参り給ふに、いみじう泣く人あるを聞きつけて、とどめて取り返し給うてけり。それを、かく鬼とは言ふなりけり。まだいと若うて、后のただにおはしける時とや。

**問一.** 次の「伊勢物語」の知識に関する問いに答えなさい。

① 「伊勢物語」が成立した時代を答えない。

② 「伊勢物語」と同じ歌物語に含まれる作品を次の選択肢の中から全て選びなさい。

ア 竹取物語　イ 土佐日記　ウ 大和物語　エ 源氏物語
オ 平中物語　カ 保元物語　キ 落窪物語　ク 増鏡

**問二.** 傍線部①～⑤の動詞の活用の種類と活用形(○行○活用○形)を答えなさい。

**問三.** 傍線部ア～ウの文中での意味を答えなさい。

**問四.** 傍線部ⁱ「鬼はや一口に食ひてけり」とあるが、鬼は何を食べたのか文中から一字で抜き出しなさい。

**問五.** 傍線部ⁱⁱの和歌「白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを」を詠んだ時の男の心情として正しいものを次から選びなさい。

ア. 思っていた女性を連れ出せたが、鬼がいるといわれる倉に連れてきてしまったことを後悔している。
イ. 思っていた女性を連れ出す際、質問に答えてあげられなかったことを後悔している。
ウ. 思っていた女性が鬼に食べられてしまい、露のように一緒に死んでおけばよかったと後悔している。

# 読解問題「伊勢物語　～芥川～」①　解答・解説

問一．①平安時代前期

②ウ(大和物語)、オ(平中物語)

…和歌を中心に，和歌の詠まれた事情を語る物語を「歌物語」という。「大和物語」は『後撰和歌集』時代に実在した人物が登場する平安時代中期の歌物語。貴族社会や説話に関するエピソードが和歌と共に書かれている。「平中物語」は平安時代中期に書かれた歌物語。平中とよばれた平貞文を主人公とした、恋愛説話。アの「竹取物語」は作り物語、イの「土佐日記」は日記、エの「源氏物語」は作り物語、カの「保元物語」は軍記物語、キの「落窪物語」は作り物語、クの「増鏡」　は歴史物語。

問二．①ア行下二段活用終止形　…　ア行は「得」「心得」のみ。今回は「得」一字だけなので、未然形、連用形、終止形の判断が難しいが、下に終止形接続の助動詞「まじかり」があるため、終止と判断できる。

②カ行変格活用連用形　…　カ行変格活用は「来」のみ。今回は「来」一字のみなので判断が難しいが、下にある助動詞「けり」が連用形接続なので、連用形と判断できる。

③ワ行上一段活用連用形　…　ワ行の動詞は、「居る」「率る」「植う」「飢う」「据う」の五つ。今回は「ゐ」のみなので、未然形か連用形。下に助詞「て」があるため連用形。

③　ラ行四段活用未然形　…　打消しの語をつけた時に「知らず」となることから、四段活用。下に助詞「で」があるため未然形。

⑤マ行上一段活用已然形　…　上一段活用の一つ「見」。今回は下に助詞「ば」(偶然条件)があるため已然形と判断することができる。

問三．ア　とても　イ　ひどく・たいそう　ウ　だんだん

問四．女　…　早く夜も明けてほしいと思いながら座っていた所、鬼がたちまち女を一口に食べてしまったが、雷の音で気づくことができなかった。

問五．ウ　…　「真珠でしょうか。「何でしょうか」と人（女）が聞かれた時に、「露」と答えて（私も露のように）消えてなくなったらよかったのになぁ。」といっていることから、男は、女の心配よりも、一緒に死んでおかなかったことを後悔していることが読み取れる。「ものを」は、逆説の確定条件＋詠嘆の終助詞で「～のになぁ」と訳す。アとイの内容は文章から読み取ることはできない。